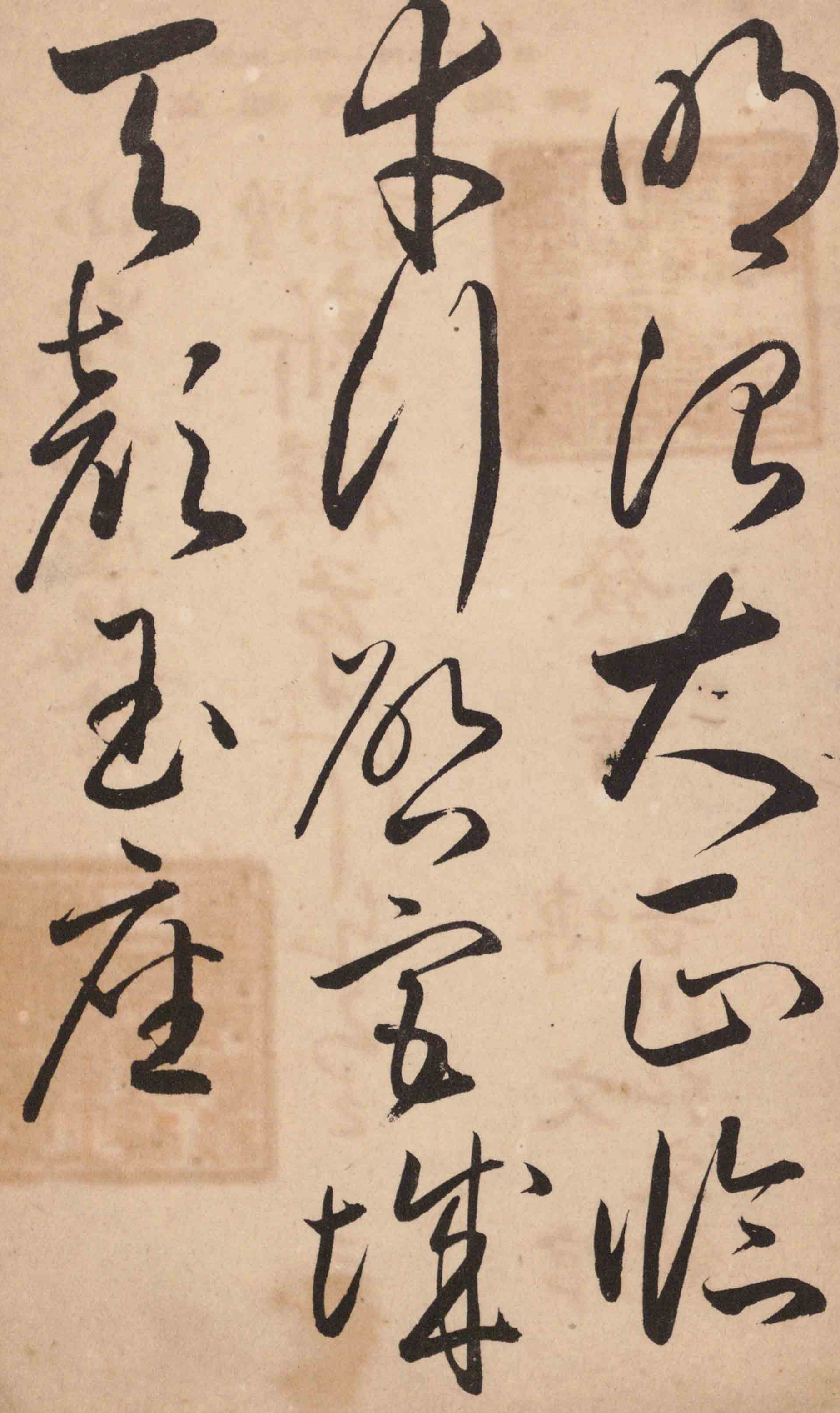
増訂
新撰筆のしをり

三

國語
二冊
一號

43191
教科書文庫
4
720
42-1917
0130
449314



三ノ一

中央図書館

大正六年一月三十一日
文部省檢定濟

小野鵞堂編書

増訂 新撰草[illegible]

三

發行所
博文館
吉川弘文館

縣第一号
國語
冊數 二

広島大学図書
0130449314

三ノ二

先達而鶴来中
より私ども両人の
寫真出来致候
皆様めにの布候

就てハ大小とも
御母上様方にも
一葉づゝ頂戴致
し度御願申上候

記

一　御書状　一通

一　御菓子　一折

右正ニ請取申候也

月　日　氏名

何某様

記

一　柳行李　壱箇

右荷ハ日通運ニて御送り申候

御改の上ハ御落手下され度候也

月　日　　氏名

某様御中

陛階享亨抑柳捎損

幼幻彼波灸炙宣宜

師帥斯期戌戍必心

恕怨畫書徒從施旋

恭賀新禧年
始良辰佳音
安泰於時健

上縮緬と紋つき羽
織にいたしたく當
取りいそぎ候ゆゑ染め下さ
れたく候合寸法

三ノ九

お紙は認め御人にならば
まゐ宿遠くぬやう
なに温之の陽ども
迷じもハ歎之中ふう

時節柄鮮魚のよし
にて京城の志るしくだされ
こし候まゝ識候文
うかゞひ候處用も成
まゞく申上候一筆
進上いたし候御見舞
あさ行まゐらせ候かしこ

月　日　　氏名

何某様　まゐる

還暦古稀米
寿華祝婚儀
誕生李家

勤勤郷卿群郡減滅

衰衷褰鈞釣鉤粟栗

暦歴派脈遂逐裁栽

迷述隠穏善喜勧歓

大小は禄に應じて高役を納め他の力を借らずして朝暮を節し蓄積をこころ懸くべし

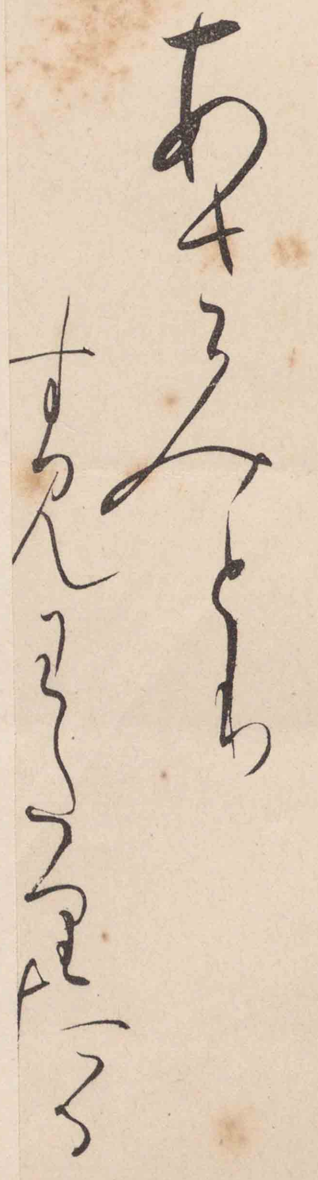
花のはゝくすゑしらず
ぬにすむめもさりけれ
こゝろさしにはさらぬまことし
らいあるもの何事の歌
ぞよまればりける

三ノ十四

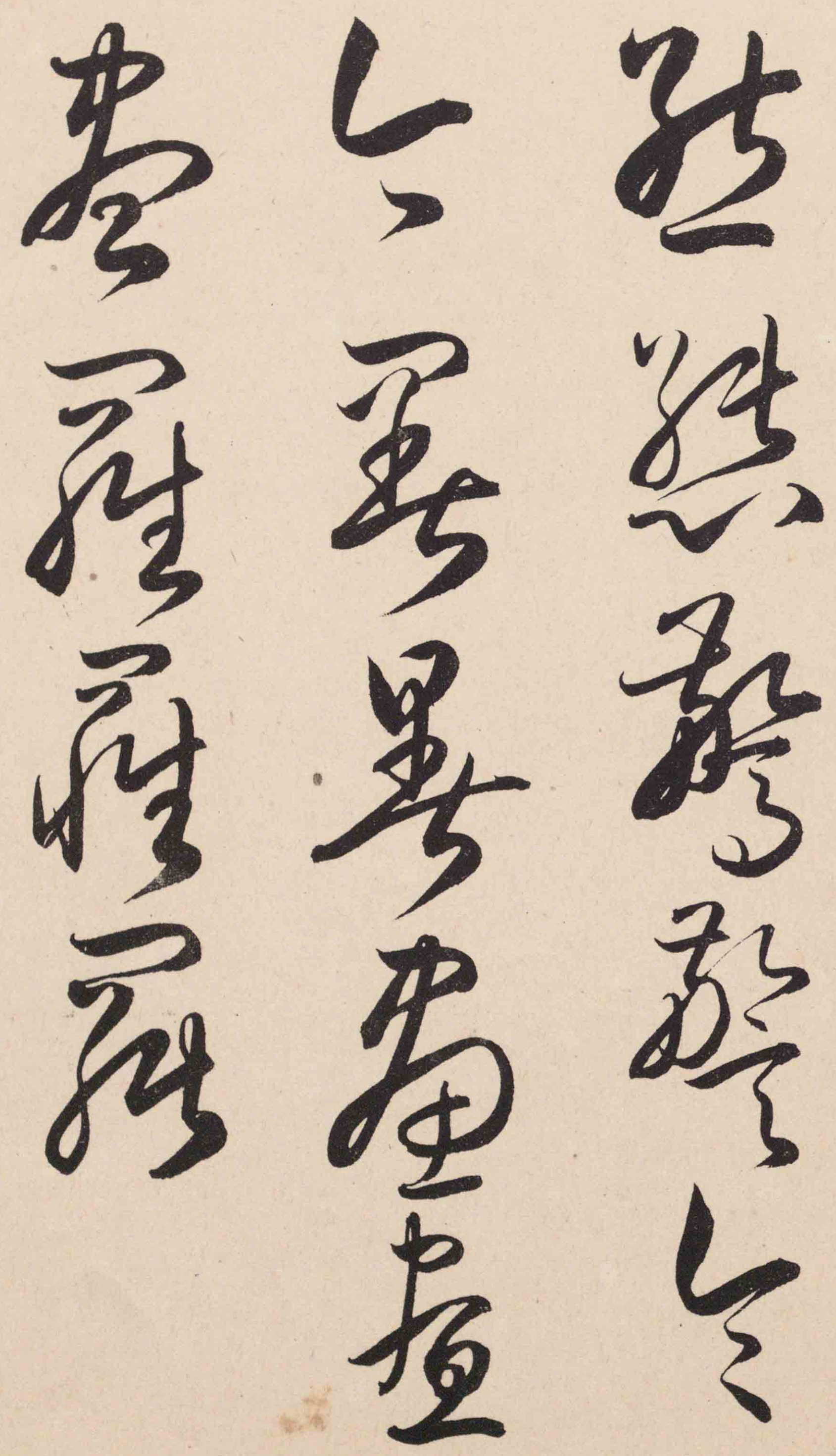
僕樸恩思想
雜歲戚第弟
陞際杉衫

至極御清[illegible]被
奉遊[illegible]候[illegible]
さて急[illegible]
明日[illegible]

動物園よりまゐれる南
洋の珍獣ども一入ゆかし
度々寄るにつけ毎にも都合
如何識にも譲らぬ中々



あきのよも
すゑのまつたく
おもふらむ
ひとをまちわひし
ころもとものは



夜一よふりあかしたる
雨のけさはやみて朝日
いとけざやかにさしいでたるに
前栽の葉の露こぼるゝ
ばかりぬれかゝりたるも
いとをかし

御普請入の大工新方
にても頼みたく候外より
御隣の若者のよし
御申中御ゆるし被
願上まゐらせ候

月　日

住所

氏名

お入用品ハ今丁度売切合せ
ませぬ直ちに申遣し候間明朝
もちけはお届け御用の趣
承るべきよし申上候
御返事申上候　かしこ

月　日

何町
氏名

御返事

長生殿裏春
秋富不老門
前日月遅

三ノ廿四

君か代はちよに
やちよにさゝれ
石の
いはほとなりて
苔のむすまで

雪中早梅

降る中に色もまかはぬ
こすゑの梅を
ちらはさし
にほひこそ見え
うきぬれ川そ

試筆　氏名

第三帖

(一) 明治、大正、臨幸、行啓、宮城、天顏、玉座(草書十四字)

(二) 先達御約束申上候私ども兩人の寫眞出來致し候間御めにかけ候

(三) 就てはなにとぞ御もと樣方のをも一葉づゝ頂戴致し度御願申上候

(四) 請取證書式

(五) 送り狀書式

(六) 陛階、享亭、抑柳、捐損、幼幻、彼波、灸炙、宣宜、師帥、斯期、戍戌、必心、怒恕、羞差、徒從施旋(類字三十二字)

(七) 慶賀、新禧、年始、良辰、佳節、安泰、壯健(草書十四字)

(八) 此縮緬を紋つき羽織にいたしたく候間取いそぎ御染め下されたく色合寸法等

(九) 別紙に認め置候まゝ間違はぬやうに御注意のほどくれぐれも御賴み申上候

(十) 此墨は朝鮮製のよしにて京城のしるべより送りこし候まゝ試み候處かつがつ御常用には成るべくやと存じ候一箱進上いたし候御ためし下されたく候かしこ(手紙書式)

(十一) 還曆、古稀、米壽、奉祝、婚儀、誕生、卒業

(十二) 勤勤、鄕卿、群郡、滅滅、哀衷衰、鉤釣鈎、粟栗、曆歷、派脈、遂逐、裁栽、遺遣、隱穩、善喜、勸歡(類字三十四字)

(十三) 大小の錄に應じて家道を約にし他の力をねがはずして朝暮を節し蓄積をこゝろ懸くべし(林子平)

(十四) 花になくうぐひす水にすむかはづのこゑを聞けば生としいけるもの何れか歌をよまざりける(古今和歌集序)

(十五) 催摧、恩思、熱熟、感惑、第弟、堅緊、折析(類字十四字)

(十六) 其後は御うと〳〵敷打過ぎ御懐かしく存候さて急におもひたち明日の休みを幸に

(十七) 動物園にまゐり南洋の珍獸ども一見いたし度と存候御許樣御都合如何試に御誘ひ申上候

(十八) (明治天皇御製) あさみとりすみわたるおほそらのひろきをおのかこゝろともかな

(十九) 熊態、驚警、令今、署暑、畫晝盡、羅罹罷(類字十四字)

(二十) 夜一よふりあかしたる雨のけさはやみて朝日はなやかにさしたるに前栽の菊の露こぼるゝばかりぬれたるもいとをかし

(廿一) 御宅御出入の大工私方にても賴みたく候まゝ御序の節そのよし御申聞け下され度願上候 草々(葉書書式)

(廿二) 拜見只今丁度參り合居候まゝ直に申きけ候處明朝出がけに相伺ひ御用の趣承るべきよし申出に御座候御返事のみかしこ(同上)

(廿三) 長生殿裏春秋富 不老門前日月遲(草十四字)(和漢朗詠)

(廿四) 君が代は千よにやちよにさゝれ石のいはほとなりて苔のむすまで(同上)

(廿五) (明治天皇御製) 雪中早梅降りつもるこずゑの雪をはらはせてけさこそ見つれうめのはつ花(試筆手本)

大正六年一月三十一日
文部省檢定濟

增訂
新撰筆のしをり

大正五年十月二十八日印刷
大正五年十月三十一日發行
大正六年一月二十二日訂正再版印刷
大正六年一月二十五日訂正再版發行
大正六年四月三日訂正三版發行
大正七年三月五日訂正四版發行
大正八年三月十五日訂正五版發行

定價	大正八年度臨時定價
一、二、三、四、各金貳拾貳錢	一、二、三、四、各金參拾壹錢

著作權所有

編輯者兼發行者 小野鋼之助
東京市京橋區新榮町五丁目三番地
發行兼印刷者 合資會社 吉川弘文館
代表者 吉川半七
名古屋市西區本町三丁目五番地
發行者 合資會社 川瀨書店
代表者 川瀨ちよ

發行所
東京市日本橋區本町三丁目 株式會社 博文館
東京市京橋區新榮町五丁目 合資會社 吉川弘文館
名古屋市西區本町三丁目 合資會社 川瀨書店

広島大学図書
0130449314